

気付かれなかったものである。ここで注目されるのは *Aralia hypoleuca* Presl. の変種として書かれていることである。この学名は以前ウラジロタラノキの学名として使われていたものであり、柳田氏が伊豆七島のものはタラノキよりウラジロタラノキに属すと考えていたことを示している。しかし、その記述はタラノキに比べて刺の無いことが強調されているだけで、どうしてウラジロタラノキの変種としたのか全然書かれていないのは不思議である。ウラジロタラノキは刺が少ないのが常態であるが、その変種とするのに刺がないという学名をつけたのも理解できない。常谷幸雄氏（伊豆青ヶ島植物調査資料, 16, 1961）は伊豆大島のものは葉の毛は少ないが刺の多いものがあり、伊豆七島でも南に行くに従って刺が少なくなるけれども全体としてはタラノキと異ならないとしている。大島の標本は見えないが、葉に毛が少ないとしているから、やはりウラジロタラノキであろう。今後確かめる必要がある。

本文をまとめるに当たって文献を教えて下さった水島うらら氏に感謝します。

*Aralia bipinnata* Blanco var. *inermis* (Yanagita) Yamazaki, comb. nov.

*Aralia hypoleuca* Presl. var. *inermis* Yanagita in J. Japan. Forestry Soc. 19: 340 (1937).

Distr. Pref. Tokyo, Izu-sichitō.

*Aralia elata* (Miq.) Seemann f. *canescens* (Fr. et Sav.) Yamazaki, stat. nov.

*Aralia elata* (Miq.) Seemann  $\beta$  *canescens* Fr. et Sav., Enum. Sp. Pl. 1: 192 (1875).

Distr. Honsyu, Shikoku and Kyushu. (東京大学 理学部附属植物園)

### ○ムッチャガラについて (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Ilex mutchagara* Makino

ムッチャガラはイヌツゲに近く、特に九州南部のイヌツゲの変種ツクシイヌツゲによく似ていて、イヌツゲの変種とされることもあるが、初島住彦氏 (1975) は琉球のナガバイヌツゲの変種とされている。若枝が無毛で明らかな稜があり、葉柄が長い点はイヌツゲよりナガバイヌツゲに入れるのが正しいと思う。両者がどのように棲み分けているのか、琉球をあまり歩いていないのでよく分からないが、ナガバイヌツゲが低地でムッチャガラが山地に生育するようである。分布は奄美大島以南、琉球とされている。しかし、台湾で初めイヌツゲの変種として発表され、後に胡秀英氏が中国の種類に移して、*Ilex triflora* Bl. var. *kanehirae* (Yamamoto) Hu とされたカネヒライヌツゲはムッチャガラと区別ができず、同じものと思う。*Ilex triflora* は中国南部、インドシナ、マレーシアに分布し、果実は葉腋に2-3個つき、果柄は長さ3-5mmと短い、台湾

のものは果実は葉腋に1個つき、果柄は長さ5-7mmと長く、葉形などもムッチャガラと同じである。和名はムッチャガラの方が早い、変種としての学名は台湾のものの方が早いので、変更する必要がある。ムッチャガラは琉球の方言、ムッチャはモチノキのことで、鳥もちのとれないモチノキモドキの意味だという。

イヌツゲ、ナガバイヌツゲを含む1群の種類は、葉が小さく、裏面に腺点をもち、果実は黒色で、モチノキ属の中では特異な群で、節として区別すべきものと思う。中国西部の *Ilex szechwanensis* Loes., 中国南部の *I. viridis* Champ., ブータンの *I. thomsonii* Hook. f., ネパールの *I. intricata* Hook. f., 中国南部、インドシナ、マレーシアの *I. triflora* Bl., フィリピンの *I. luzonica* Rolfe などがある。東アジア地域に限られた群である。

Sect. **Stigmatophorae** (Loes.) Yamazaki, stat. nov.

*Ilex* subgen. *Euillex* Loes. ser. *Aquifolium* Maxim. sect. *Mirodontae* Loes. subsect. *Stigmatophorae* Loes. in *Monog. Aquifol.* 1: 343 (1901), in *Engl. et Prantl. Nat. Pflanzenfam.* ed. 2, 20b: 71 (1960).

*Ilex* sect. *Paltoria* (Ruiz et Pavon) Maxim. ser. *Stigmatophorae* (Loes.) Hu in *J. Arn. Arb.* 30: 317 (1949).

Type. *Ilex triflora* Bl.

***Ilex maximowicziana*** Loes. var. ***kanehirae*** (Yamamoto) Yamazaki, comb. nov.

*Ilex mutchagara* Makino in *Bot. Mag. Tokyo* 27: 75, f. 2 A (1913).

*Ilex crenata* Thunb. var. *kanehirai* Yamamoto in *Suppl. Ic. Pl. Formos.* 1: 31, f. 11 (1925).

*Ilex crenata* Thunb. var. *scoriarum* auct. non W. W. Smith: Yamamoto, l. c. 1: 31 (1925), ut *scoriatum*.

*Ilex kanehirai* (Yamamoto) Koidz. in *Bot. Mag. Tokyo* 43: 389 (1929).

*Ilex scoriatulum* Koidz., l. c. 43: 389 (1929).

*Ilex mutchagara* Makino var. *kanehirai* (Yamamoto) Masamune in *Trans. Nat. Hist. Soc. Formos.* 25: 253 (1935).

*Ilex triflora* Bl. var. *kanehirai* (Yamamoto) Hu in *J. Arn. Arb.* 34: 151 (1953).

*Ilex crenata* Thunb. var. *mutchagara* (Makono) Ohwi in *Bull. Sci. Mus. Tokyo* 33: 78 (1953).

*Ilex fosbergiana* Hu in *Journ. Jap. Bot.* 46: 68 (1971).

*Ilex maximowicziana* Loes. var. *mutchagara* (Makino) Hatusima, *Fl. Ryukyus*, ed. 2, 884 (1975).

Distr. Isls. Amamiyohshima, Ryukyus and Taiwan.

(東京大学 理学部附属植物園)